

◎ 公益財団法人日本武道館開館 55 周年記念式典・祝賀会

日本武道館の 55 周年を 盛大に祝う

(公財)日本武道館開館五十五周年記念式典・祝賀会

日本武道館の開館55周年記念式典・祝賀会が創立記念日である10月3日、ホテルグランドパレス（東京・飯田橋）で来賓・関係者約480名が集まり、盛大に開催された。

式典・祝賀会は、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長による開式の辞で華々しく始まった。はじめに高村正彦日本武道館会長が挨拶。続いて萩生田光一文科科学大臣、遠藤利明東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長代行が祝辞を述べた。

次に日本武道館の活動に貢献した功労者6名の表彰が行われ、場内は大きな拍手に包まれた。引き続き、高村会長など4名で鏡開きが執り行われ、臼井日出男日本武道館理事長の発声で参加者はそろって祝杯をあげた。懇談の最中、森喜朗同組織委員会会長が駆けつけて祝辞を述べ、会は一層の賑わいを見た。

1964年の東京五輪を契機に開館した日本武道館は、半世紀以上にわたって武道を通じた青少年の健全育成に注力してきた。55周年の本年は増改修工事を実施し2度目のオリンピックに備え、一層の武道振興事業に邁進する。



鏡開き。左から萩生田文部科学大臣、白井理事長、高村会長、遠藤組織委員会会長代行





高村 正彦
公益財団法人日本武道館会長

日本武道館は、今から55年前、国会の議決を経て、天皇陛下より御下賜金を賜り、わが国伝統の武道を、国民とくに青少年に普及奨励し、その精神を高揚するとともに、広く世界の平和と福祉に貢献することを目的として、昭和39年10月に開館いたしました。

平成24年度には全国1万余校の中学1・2年生で武道が必修化され、「礼儀」と「道の文化」の充実に取り組んでいるところであります。「仏を作って魂を入れる」ことが大事で、関係者と協力しながら中学校武道必修化の充実に努めていく所存であります。

来年には2回目となるオリンピック東京大会が開催され、日本武道館は柔道と空手道の会場となります。現在、オリンピック大会の成功、日本武道館のレガシー化、共生社会にふさわしいバリアフリー化を目標に掲げ、全館的な増改修工事を実施中であり、今日お集りの皆様には、来年6月の完成によって生まれ変わる日本武道館にご期待いただきます。

乾 杯



開館55周年記念式典・祝賀会に多数の皆様のご出席をいただきまして、盛大に開催できますことを心から感謝申し上げます。来年のオリンピックを契機に日本武道館が益々発展するよう皆様のご尽力をお願い申し上げます。



白井日出男
公益財団法人日本武道館理事長



森 喜朗

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長

日本武道館開館55周年を心からお祝い申し上げます。日本武道館は青少年の健全育成を担うとともに、前回の東京オリンピックで初めて採用された柔道の会場として、建設されました。来年は再び日本武道館で、柔道と新たに空手のオリンピック競技が実施され、益々日本武道館は世界から注目されることでしょう。これからも日本武道の中心に立つてのご活躍を祈念いたします。



遠藤 利明

同組織委員会会長代行



萩生田光一

文部科学大臣

日本武道館は前回の東京オリンピックに合わせて完成し、55年の長きにわたり、武道の殿堂として各種武道大会が開催され、数多くの優れた武道家を輩出するとともに、我が国における武道の普及・奨励の拠点として役割を果たしてまいりました。

来年の東京オリンピック・パラリンピックにおいても、優れた武道家が集い、心身の鍛錬を競い合う姿が、我が国のみならず世界の多くの方々を魅了し、武道の真髄に触れる機会となることを期待しております。

また、公益財団法人日本武道館は、毎年、全国各地で青少年武道錬成大会を実施し、青少年の健全な育成を図るとともに、武道指導者の資質向上を図る研修会を実施するなど、武道の振興に多大なご尽力をされたことに對し、改めて敬意を評します。

55年の時を経て、益々パワーアップした日本武道館がオリンピック・パラリンピックのレガシーとして、また、武道を始め多様な活動の聖地として、飛躍を遂げられることを願います。



55周年を祝して、各連盟・団体代表者
10名より、お祝いの言葉をいただいた。



増田規一郎全日本弓道連盟会長



山下泰裕全日本柔道連盟会長



南和文日本相撲連盟会長



福本修二全日本剣道連盟副会長

○山下泰裕全日本柔道連盟会長

「日本武道館にはこれからも武道界を牽引していただくことを心から願っております。また、柔道界にとって日本武道館は聖地です。1964年の東京オリンピックで、ヘーシンク選手が神永昭夫先生を破ったことから日本の柔道が世界の柔道として大きく発展しました。来年はオリンピックが東京に戻ってきます。日本武道館で世界に日本柔道の心意気を示せたらいいと思います」

○福本修二全日本剣道連盟副会長

「55周年、誠におめでとうございます。これからの益々のご発展を祈念いたします。日本武道館は武道のメッカであります。剣道人、武道人にとって、ここで試合ができる意義は口ではうまく説明できません。また、世界の剣道人も日本武道館での試合となると非常に喜んでおられます。これからの武道のメッカとして尽力してもらいたいと思います」

○増田規一郎全日本弓道連盟会長

「新たに増改修工事をされて、次のオリンピックに向けて新たな出発となり、これからの期待をしております。昔は屋内で全員集まって開催で

きる弓道大会というのはございませんでした。そんな中、昭和63年より開催された錬成大会は屋内で数千人が集まっていける画期的な大会となりました。それから少年少女の弓道普及に非常に貢献いただいております。これからの日本武道館のご活躍を祈念いたします」

○南和文日本相撲連盟会長

「55周年、誠におめでとうございます。公益財団法人日本武道館が武道団体を取りまとめているからこそ、我々相撲連盟も活動できております。また、日本武道館には武道振興の一つとして相撲にもご支援いただいております。中学校武道必修化では、日本武道館のお力添えを受けて全国指導者研修会などの講習会を実施しております。本当に感謝申し上げます」

○栗原茂夫全日本空手道連盟副会長

「東京オリンピックがきっかけとなりつくられた日本武道館ですが、今回55周年となり、来年は2度目のオリンピックの柔道会場として、そして初の空手道の競技会場となります。空手界でも、世界の日本武道館として、ずっと憧れの会場でありま



佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長



宗由貴少林寺拳法グループ代表



栗原茂夫全日本空手道連盟副会長



鈴木健全日本銃剣道連盟副会長



川島一浩少林寺拳法連盟会長



植芝守央合気会理事長

す。全国の子どもたちは日本武道館の大会に出場することが夢であり、空手競技者にとっては誇りです。今後も日本武道館がある限り、武道は発展していくと思います」

○植芝守央合気会理事長

「おめでとうございます。55年間、日本の武道の殿堂として、歩み続けられたのは大変素晴らしいことですし、これからもその役割を担っていただければと思います。全日本合気道演武大会は昭和52年の15回大会から続けさせていただいております。全国の参加者の方々は日本武道館で演武を行えるということで非常に感銘を受けているとの声を聞いております。合気道、武道を志す者にとつて、日本武道館で演武できるというのは、嬉しくもあり、意義のあることだと思っております」

○宗由貴少林寺拳法グループ代表

「日本武道館というのは日本文化の象徴だと思います。55年という半世紀を迎えられたことは誠に喜ばしい限りです。また、来年が東京オリンピックということ、武道が日本の文化の伝承という形で発展されることをお祈り申し上げます」

○川島一浩少林寺拳法連盟会長

「本日は誠にありがとうございます。少林寺拳法では、学生の全国大会や夏の錬成大会などを日本武道館で開催させていただいております。東京オリンピックの次の年の2021年には、4年に一度の世界大会を日本武道館で開催いたします。その準備を進めてまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます」

○佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長

「誠におめでとうございます。これまで多くの選手が日本武道館で稽古をして試合をし、旅立って行ったわけであり、それぞれに大きな思い出が残っていることと思います。今後、次の世代を担う若者が日本武道館で錬磨され、成長することを期待しております」

○鈴木健全日本銃剣道連盟副会長

「日本武道館は武道普及振興の中心的な存在で、常に武道全9種目を盛り上げていただいております。その功績は計り知れません。これからも武道の振興・普及と国際発展にご活躍いただきたいと思っております。銃剣道もその武道の一つとして頑張らせていただきます」



日本武道館の組織活動に貢献した功労者
6名より、喜びの言葉をいただいた。



松永 光
日本武道館 前会長

昭和 3 年長崎県生まれ。26 年早稲田大学法学部卒業。29 年福岡地方検察庁検事。44 年に衆議院議員初当選。59 年に文部大臣、以後、通商産業大臣、大蔵大臣などを歴任。昭和 55 年に日本武道館評議員に就任。平成 8 年～19 年に理事長。19 年～29 年に日本武道館会長を務める。

この度、功労賞の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。ご支援くださいました皆様
に感謝し、厚く御礼申し上げます。

私は、10 年にわたって日本武道館の会長職を務めさせていただきました。その中で
印象深いことは、天皇后両陛下の御臨席を賜り、日本武道館開館 50 周年記念式典・
日本武道祭を開催したことです。私は両陛下をご案内したわけですが、あの時は緊張
いたしました。しかし、両陛下とも熱心に演武を観覧いただき、非常に感銘を受けま
した。50 年間の日本武道館の武道振興事業が実った瞬間だったと思います。

日本武道館には、まずは、来年の東京オリンピック・パラリンピックが成功するよ
う頑張ってもらい、そしてこれからも武道を通じた青少年の健全育成に尽力いただき
たいと思います。



日本武道館 50 周年記念式典・祝賀会の鏡開き (2014 年)



功労賞受賞者記念品
(石川・輪島塗「六角花器」)



佐藤 成明
日本武道館武道学園
剣道講師

昭和 13 年栃木県生まれ。東京教育大学大学院教育学研究科修士課程教育心理学科修了。筑波大学名誉教授。剣道範士八段。46 年～49 年まで武道学園剣道講師、平成 9 年より再び武道学園講師を務める。



古川 瞬也
日本武道館武道学園
杖道講師

昭和 15 年福島県生まれ。34 年に警視庁に入庁。以後 42 年間にわたって奉職。杖道範士八段。47 年より武道学園杖道講師を務め、現在に至る。

日本武道館の思い出は、昭和 39 年の開館式です。絢爛豪華な会場に昭和天皇が御成になり、私は 3 階席から見ましたが、剣道の中野八十二先生と重岡昇先生によって白道着で模範仕合が行われました。これが日本武道館の第一印象です。東京教育大時代に少し学園講師を務めて、平成 9 年から縁あって再び講師をさせていただき今日に至ります。武道学園は少年の部と一般の部があり、少年の部では基礎・基本を大切に指導しております。一般の部では、基礎・基本はもちろんのこと、生涯剣道に繋がるようにお手伝いをさせてもらっております。武道学園では、剣道専門家とは異なる方々と接することで新たな見方ができ、自分自身も勉強になりました。今年の 12 月には、

学園講師として中国の重慶で指導を行います。日本武道館には精神性を重視した運動文化としての剣道をさらに推し進めてほしいです。その殿堂が日本武道館だと思っております。



武道・武術交流演武大会での模範演武 (2013 年)

功労賞の拝受は身に余る光栄なことに感謝申し上げます。私は警視庁に勤務し、武道学園の講師は昭和 47 年から務めています。当時、清水隆次先生に「武道学園で杖道ができるから、手伝ったらどうだ?」と言われてまして杖道の講師を務めました。いつの間にか半世紀近く歳月が流れ、今日に至ります。自分でもこんなに長くできたことに驚いておりますし、私の杖道人生の中で一貫して日本武道館学園講師を続けて来られたことは力になっております。杖道は全日本剣道連盟に属していますが、知名度があまりありません。その中で、武道の殿堂である日本武道館が武道学園で昭和 47 年に杖道を採用してくれたことは非常にありがたいことですし、感謝しております。これからも体の動く限り、指導を続けていきたいと思っております。



平成 26 年度全日本少年少女武道
(なぎなた) 錬成大会開会式 (2014 年)

ト毎に表彰いただくことが何よりも皆様の喜びになっております。来年は東京オリンピックがありますので、武道というものが全世界の方々にご覧いただけます。それを日本武道館が先頭となって発信してもらい、全世界になぎなたを含めた日本の武道を広めてほしいです。

日本武道館の事業で思い出深いのは、昭和 53 年から開催されているなぎなたの錬成大会です。当時、私は実行委員としてお手伝いさせていただき、今日に至るまで毎年何かしらの形で関わらせていただいております。これは大きな喜びになっております。最初の頃は参加者は 600 名程度でしたが、現在は多くの方々に参加いただいております。大会では試合そのものよりも錬成を主とし、誰もが参加できるという趣旨で実施しました。やがてどの都道府県でもこの錬成大会の成績が評価され、みなさんが競って出場するようになりました。また、コ



吉井美恵子
日本武道館武道学園
なぎなた講師

昭和 25 年東京都生まれ。都立深川高等学校卒業。全日本なぎなた連盟専務理事。東京都なぎなた連盟副会長。なぎなた範士。平成 4 年より武道学園なぎなた講師を務め、現在に至る。



加藤 東陽
月刊「書写書道」
編集顧問

昭和 20 年福島県生まれ。埼玉大学教育学部卒業。東京学芸大学名誉教授。全日本書道連盟常務理事。平成 16～31 年 3 月まで月刊『書写書道』編集委員、21 年 4 月より審査部長。31 年 4 月から編集顧問。

日本武道館の教育文化事業の大きな行事として書初め大会、高田宮杯日本武道館書写書道大展覽会がありますが、審査員の先生方や執筆者の先生方には日本武道館の姿勢をご理解いただき、大変感謝しておりますし、私自身も日本武道館に感謝しております。

小学生から大学生、一般、障害者の方も含めて、そして北海道から沖縄のみならず海外も含めて、三藤局長のおっしゃる縦と横のラインから満遍なく出品があることに非常に感動しております。来年の 4 月からは小学校 1・2 年生の学習指導要領に、水書用筆等を使用した運筆指導が入ってまいります。そういったことを月刊「書写書道」を通して、広く正しく伝えていきたいと思えます。



毛筆の部、段位認定試験審査会 (2018 年)



開館50周年記念式典・
日本武道祭で、天皇・
皇后両陛下のご説明役
を務める（2014年）

現在進行中の日本武道館増改修工事を含め、来年の東京五輪成功と日本武道館活動再開に向け、着実な仕事を心がけてまいります。

今回の受賞は、これまでご縁をいただいた全ての関係者の皆様方のおかげであり、本当にありがとうございます。

日本武道館に入団してから丸48年、開館7年目に当たりますが、よく仕事をしたなあ、というのが実感です。

今の高村会長、臼井理事長をはじめ、歴代の松前、塩川、松永各会長と、指導者の先生方に恵まれました。

20代で一般行事利用規程の改定、その後、日本武道協議会、全国都道府県立武道館協議会、日本古武道協会の立ち上げに関わりました。教育文化事業では、月刊「武道」のリニューアルと単行本の発行、書道を担当する教育文化課の新設と月刊「書写書道」の創刊、武道学園組織機構の改革、財団50周年記念式典祝賀会の実行と50年史の刊行、中学校武道必修化の準備と推進、そして今、充実期に入った日武協、全武協、古武協の諸活動に関わっており、日本武道代表団海外派遣をはじめとする国際交流事業の充実、拡大、来年は2020年東京オリンピック・パラリンピック柔道・空手競技の開催と本当に仕事に恵まれた48年間でした。



三藤 芳生
日本武道館
常任理事・事務局長

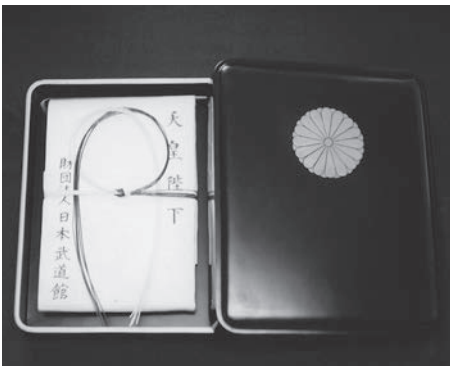
昭和24年山口県生まれ。46年早稲田大学教育学部社会教育学科卒業。同大空手部OB。46年日本武道館入団。日本武道館常任理事・事務局長。日本武道協議会常任理事。全国都道府県立武道館協議会常任理事。日本古武道協会常任理事。

懇 談



〈年表〉日本武道館五十五年の足跡

(西暦) 年		月日	日本武道館の主な出来事
昭和36年 (1961)	6・6		柔道出身の議員が中心となり国会議員柔道連盟を結成、会長に正力松太郎(自民)氏が就任
	6・30		武道会館建設議員連盟結成、超党派で国会議員の署名を獲得することを決め、10月には525名の賛成署名獲得
	12・16		財団法人日本武道館の設立発起人総会、衆議院第3議員会館で開催
昭和37年 (1962)	1・31		文部大臣の設立許可を得、正式に「財団法人日本武道館」発足、初代会長に正力松太郎
	2・10		「日本武道館会報」発行
	3・16		正力会長、池田首相に国庫補助を要請
	5・23		事務局を開設、衆議院第3議員会館235室から千代田区丸の内の富士製鉄ビル内へ
	8・28		「国技の総合会館建設に関する決議案」衆議院全会一致で採択
昭和38年 (1963)	7・16		日本武道館建設地を千代田区代官町の皇居旧北の丸跡地内(1万806平方メートル・建設省保管地)と政府閣議で決定
	8・19		設計審査委員会は4設計業者(大江宏建築事務所、日建設計工務、松田・平田建築設計事務所、山田守建築事務所)から提出された建築競技応募設計案から山田守建築事務所の設計を採用
	10・2		東京オリンピック組織委員会は、五輪柔道会場を日本武道館に正式決定
	10・3		地鎮祭を執り行う
	10・4		建設工事開始
	10・25		天皇陛下から御下賜金をいただく



昭和天皇陛下より御下賜金を賜る(昭和38年)



建設決議案の趣旨説明をする正力松太郎日本武道館初代会長(昭和37年)

昭和39年 (1964)	5・15	上棟式(正力会長、赤城理事長はじめ船田衆議院議長、佐藤五輪担当相、安川オリンピック組織委員会会長ら各界の代表約200名が列席)
	10・3	開館式(天皇后両陛下をお迎えして演武始めの儀。政、官、財界、スポーツ、武道界の代表約500名が列席)
	10・10	東京オリンピック開会式(国立競技場)
	10・15	柔道競技に先立ち、弓道・相撲・剣道のデモンストレーション披露
	10・20 23	オリンピック柔道開幕(軽量級・中谷、中量級・岡野、重量級・猪熊の金メダル3、無差別・神永の銀1を獲得)
	11・1	一般の使用第1号「全国三菱武道大会」開催
	12・26 30	第1回青少年武道錬成大会開催
	12・31	第1回「越年稽古」実施
昭和40年 (1965)	1・7	第1回全日本書初め大展覧会・席書大会実施
	1・15	「鏡開き式」「具足開き」開催
	4・1	学生武道クラブ発足
	8・3 7	第1回柔道・剣道指導者講習会開催
	8・15	天皇后両陛下をお迎えし全国戦没者追悼式
昭和41年 (1966)	1・1 16	第1回日本武道展をロビーで開催
	4・25	日本初の「武道学園」開校。第1期生は柔道、剣道の師範・教養両科あわせて52名
	5・19	「武道の学校正科必修」の請願書を国会に提出
	6・30 7・2	ビートルズが武道館公演
	7・25 30	第1回全国高校武道合宿錬成大会(剣道)開催
	7・31	第1回全日本少年剣道錬成大会開催
	8・4	武道博物館・図書館の起工式
	8・4 9	第1回全国高校武道合宿錬成大会(柔道)開催
昭和42年 (1967)	1・1	日本武道館会報「武道」を新たに雑誌「武道」として創刊
	5・25	「武道館ニュース」発行



雑誌「武道」創刊(昭和42年)



第1回全日本少年剣道錬成大会(昭和41年)

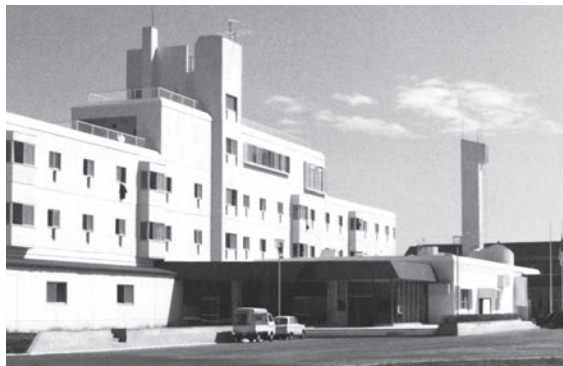


日本武道館開館式(昭和39年)

昭和42年 (1967)	昭和43年 (1968)	昭和44年 (1969)	昭和45年 (1970)	昭和46年 (1971)	昭和47年 (1972)
8・27 ～ 30	10・1	10・1 ～ 31	10・4	10・31	11・24 ～ 26
ユニバーシアード東京大会柔道開催。無差別を含めた6階級と団体戦制覇との完全優勝	第1回全日本空手道大会開催	「日本武道館3年の歩み―写真展」を開催	国際親善剣道大会を全日本剣道連盟と共催で開催	吉田茂元首相の国葬儀	新館(地下2階図書館他)増築工事完了
					日本武道学会発足。設立総会を開催
					旧偕行社(千代田区九段北)の敷地建物を日本地所より買収し、「青少年武道振興センター」として改修、9月に完成
					日本武道学会の第1回研究発表大会開催
					青少年武道振興センター(東京都千代田区九段北)で武道学園・柔道の授業開始
					武道学園に東京都から各種学校の認可
					開館五周年記念式典を青少年武道振興センターで開催
					正力松太郎初代会長死去。14日、日本武道館で葬儀
					青少年武道振興センター裏に「武道振興会館」の建設が決定、起工式を挙行
					第1回世界剣道選手権大会を開催
					日本武道館研修センター起工式を千葉県勝浦市の現地で実施
					第1回世界空手道選手権大会を開催
					「武道振興会館」の第一期工事中、諸般の事情により社団法人実践倫理宏正(会)土地・建物を売却
					日本武道館研修センター竣工、落成式を実施
					日本武道館研修センター初の財団武道行事・全国高校武道合宿錬成大会(剣道・柔道各6日間)を開催
					日本武道館研修センターで第1回青少年武道錬成大会(剣道・柔道各3日間)開催
					財団設立十周年
					第1回日本武道祭を、高松宮殿下ご臨席のもと、開催



第1回日本武道祭(昭和47年)



日本武道館研修センター竣工(昭和46年)

昭和48年 (1973)	5・12	中日友好協会訪日代表団の廖承志団長ら20名が来館、歓迎武道演武大会を実施
昭和49年 (1974)	10・13	千葉国体の折、天皇皇后両陛下、日本武道館研修センターにお立ち寄り
昭和49年 (1974)	9・18	中国少年武術団、太極拳などの演武を日本初披露
昭和50年 (1975)	11・20	フォード米大統領来館、歓迎武道演武会を実施
昭和50年 (1975)	1・10	月刊「武道」、武道文化総合誌として新装刊行
昭和50年 (1975)	4・1	一般行施設設備使用料金体系を抜本改定
昭和51年 (1976)	6・16	佐藤栄作元首相の国民葬
昭和51年 (1976)	1・4	全日本書初め大会・席書大会に事業本部制
昭和52年 (1977)	10・25	武道図書館を整備。教育関係、武道図書をはじめ、歴史文献図書、哲学図書、武道記録フィルムを収集
昭和52年 (1977)	4・23	日本武道協議会発足、発会式を実施
昭和53年 (1978)	12・13	日仏ソ3国対抗国際親善柔道大会開催
昭和53年 (1978)	11・15	日本武道館研修センターの研修室落成
昭和53年 (1978)	2・19	第1回全日本古武道演武大会を開催
昭和53年 (1978)	5・15	月刊武道別冊『日本古武道の全容』を刊行
昭和54年 (1979)	9・4～25	日本武道館派遣の訪欧武道団(松前重義団長)、欧州3カ国を歴訪。以降継続的に実施
昭和54年 (1979)	9・10	武道界初の年鑑『日本武道年鑑』第1号を発刊、第19号(平成8年版)まで毎年刊行
昭和54年 (1979)	1・30	国会議員武道議員連盟、日本武道協議会の共催で第1回武道振興懇談会を霞が関ビルの東海大学校友会館で開催
昭和54年 (1979)	2・7	大道場床材の全面改修。電光掲示盤と、せり上がり舞台を新設
昭和54年 (1979)	2・17	日本古武道協会が発会、発会式を実施
昭和54年 (1979)	3・31	古武道の保存映画『日本の古武道』10流派を制作、以降10年間で88作品が完成
昭和54年 (1979)	4月	全日本少年武道錬成大会が国庫補助対象事業に
昭和54年 (1979)	7・27	全国公立武道館協議会が発足、発会式を実施
昭和54年 (1979)	9・15～16	第1回全国書写書道指導者講習会を開催
昭和54年 (1979)	10・5～6	全日本弓道連盟創立三十周年・日本武道館開館十五周年記念全国弓道大会を開催



日本武道協議会発足（昭和52年）



昭和天皇皇后両陛下が研修センターにお立ち寄り（昭和48年）

昭和54年 (1979)	昭和55年 (1980)	昭和56年 (1981)	昭和57年 (1982)	昭和58年 (1983)	昭和59年 (1984)	
10・7	10・29	3・11	4・25	5・29	2・18	4・24
日本武道館開館十五周年記念剣道範士八段選抜優勝大会を、浩宮殿下ご来館のもと開催	日本武道館十五周年記念式典開催、作家・小松左京氏が講演	日本武道館常任理事会で「武道大学」設立を決議	日本武道館研修センターに7人立の弓道場が完成	国際武道大学設立財団発起人会開催、理事長に松前重義日本武道館会長を選任	武道議員連盟、日本武道協議会、日本武道館の三者共催で「第1回武道振興大会」を開催。武道を学校の必修正課にを明記した大会決議を採択、文部大臣に提出	国際武道大学設立準備財団に財団法人設立許可
						「全国公立武道館協議会」を「全国都道府県立武道館協議会」に改組
						日本武道協議会「武道憲章作成委員会」を設立
						日本武道協議会が「武道功労者」「武道優良団体」を表彰
						フランス・パリで日本古武道演武パリ大会を開催
						ヨルダン・フセイン国王が武道演武会を見学
						国際武道大学起工式を千葉県勝浦市で挙行
						同年度から国庫補助金はすべて事業費が対象に
						武道学園に少林寺拳法教室を新設
						ヨルダン・フセイン国王が武道演武会を見学
						日本武道館常任理事会で千葉県勝浦市に「武道科学研究センター」設置を決議
						文部省から「学校法人国際武道大学」の設置認可
						日本古武道協会が第1回となる昭和58年度古武道功労者12名を選考。6月の総会で表彰状授与（以降、平成11年度まで84名を表彰）
						ブルネイ国王・ボルキア国王が武道演武会を見学
						国際武道大学開学、第1期生515名が入学
						外務省事業の「外国青年招へい武道演武会」を実施、平成13年まで計172回実施



国際武道大学開学（昭和59年）



開館15周年記念剣道範士八段選抜優勝大会（昭和54年）

昭和63年 (1988)	4・11 1・15 22	7・1 1 9	4・23	4月	10・23	10・16 30	6・13 23	5・30	3・18 24	10・31	7・17	6・28	2・17	12・26	10・2	9月	8・21	10・31	7・27 31	7・1	6・28 31
	日米欧委員会の来日関係者に体験演武会を実施	日本武道代表団(現代武道7道、古武道5流派)オーストラリア・パースへ	日本武道代表団(現代武道9道、古武道4流派)フランス・ニースへ	日本武道協議会設立十周年記念式典を挙行、「武道憲章」制定を記者発表 修繕工事を実施	建物老朽化に対応するため「施設整備修繕計画」を策定、緊急度の高いものから修繕工事を実施	日本武道協議会・日本武道館は、学校教育の中の武道(格技)実施時間数の増加を塩川文部大臣に陳情	日本武道代表団50名、中国・北京、西安、上海で中国武術との演武交流	日本武道代表団(現代武道9道、古武道3流派)、オーストラリア・ウイーン、フランス・リヨン、イギリス・ロンドンへ	日本武道代表団13名、シンガポール国際武道祭へ 「日本武道館武道科学研究センター」が竣工	日本武道代表団13名、シンガポール国際武道祭へ 「日本武道館武道科学研究センター」が竣工	事務棟改修工事完了	本館南東に搬入搬出用リフター設備を新設	第1回日本武道館書写書道大展覧会・授賞式を開催	会」を1万人余の観衆を集め開催	開館二十周年記念行事「第8回日本古武道演武大会」「日中親善武道演武交流大会」を開催	潮杯争奪武道大会」を国際武道大学で開催	日本武道館開館二十周年記念式典を皇太子同妃両殿下ご臨席のもと挙行	武道学園に合気道教室を新設	日本武道館開館二十周年記念・第1回「全国家庭婦人剣道大会」を開催	日本武道館二十年のあゆみ展を本館1階ロビーで開催	地域社会武道指導者研修会を日本武道館研修センターで開催、以後国庫補助対象事業として全国各地で開催



武道憲章制定記者発表 (昭和62年)



開館20周年記念式典 (昭和59年)

昭和63年 (1988)	5月～11月	アセアン青年招へい武道演武会。5カ年計画で行われてきたが63年度でひとまず終了。昭和61年度から太平洋諸国へ、さらに昭和62年度からは、中国、韓国へと拡大された青年招へい事業も11月で終わり、5年間で4474名が来館 建国200年を迎えるオーストラリアの招きで、日本武道代表団(現代武道8道、古武道3流派)、オーストラリア・ブリスベンとシドニーへ 第1回「国際武道文化セミナー」を日本武道館研修センターと国際武道大学を会場に実施、以降継続事業として毎年実施 中学校・高等学校学習指導要領告示「格技」が「武道」に改称 外国青年招へい武道演武会開催、この年度から「第2期5カ年計画」がスタート。 平成5年度までに6013名が来館
平成元年 (1989)	3・7～11	日本武道館開館二十五周年記念式典・祝賀会を都内のホテルで実施 日本武道代表団(現代武道9道、古武道3流派)、ベルギー・ブリュッセルへ 日本武道代表団(現代武道9道、古武道3流派) ニュージーランド・クライストチャーチへ 武道学園、文化交流使節団を結成しオーストラリア訪問 大天井アスベスト除去工事を完了。大道場床材全面貼り替え、1階空調機器更新、3色LED電光掲示盤の新設も完工。3月5日に竣工式を挙行 『日本武道館武道学園創立二十五周年記念誌』刊行 月刊「書写書道」を創刊
平成2年 (1990)	8・20～27	日本武道代表団(現代武道9道、古武道3流派)、アメリカ・ソルトレイクシティへ 松前重義日本武道館第四代会長死去、11月18日に偲ぶ会を都内ホテルで実施 武道学園に空手道教室を新設
平成3年 (1991)	1・10～	日本武道代表団(現代武道9道、古武道3流派)、アメリカ・ポートランドへ 『弓道指導の手引』を発行 『なぎなた指導の手引』を発行
平成4年 (1992)	5・22～29	本館大道場1・2・3階固定客席の全面改修工事完了 会計処理を「企業会計」から「公益法人会計基準」方式へ全面改訂 全国1万1000の中学校で武道が正課・選択科目となる
平成5年 (1993)	4月	



月刊「書写書道」創刊(平成3年)



開館25周年記念式典・祝賀会(平成元年)



第1回国際武道文化セミナー(平成元年)

平成6年 (1994)	6・6 3・23 4月	日本武道代表团(現代武道9道、古武道3流派)、アメリカ・フェニックスへ 目黒ユネスコ協会の要請で、在日留学生を対象に日本武道演武会を開催 全国5500の高校で武道が正課・選択科目となる
平成7年 (1995)	10・3 6・1 3月	日本武道館開館三十周年記念式典 土井たか子衆議院議長、原文兵衛参議院議長を来賓に迎え実施、記念事業として『日本武道館三十年』を刊行 「阪神・淡路大震災」(1・17)の義援金100万円と被災地支援コンサート会場使用料1440万円を被災地に拠出
平成8年 (1996)	2・27 5・27 6・3	日本武道館大道場ホール音響設備更新工事完了 日本武道代表团(現代武道9道、古武道2流派)、アメリカ・アルバカーキへ
平成9年 (1997)	1・1 6・13 20	日本武道代表团(現代武道9道、古武道2流派)、アメリカ・ボストンへ 月刊「武道」を新年号より「武道文化総合誌」から「心技体 人づくりをめざす総合誌」に全面リニューアル 日本武道代表团(現代武道9道、古武道2流派)、アメリカ・ロングビーチへ
平成10年 (1998)	2・28 5・15 22	日本武道学会設立三十周年記念事業の一環として、『武道学研究文献目録』の刊行に協力、助成 日本武道代表团(現代武道9道、古武道2流派)、カナダ・バンクーバーへ
平成11年 (1999)	2・26 5・7 14	日本武道館研修センター敷地内に相撲道場完成 日本武道代表团(現代武道9道、古武道2流派)、カナダ・ナイアガラフォールズへ
平成12年 (2000)	11・2 11・11 4・4 6・2 10	シユレーダー独首相が武道演武会を鑑賞 月刊「武道」連載の『剣の道 人の道』(岡村忠典著)を日本武道館初の単行本として発刊 日本武道館ホームページを開設 日本武道代表团(現代武道9道、古武道2流派)、メキシコ・プエブラとキューバ・ハバナへ



研修センターに相撲道場完成 (平成 11 年)



開館 30 周年記念式典 (平成 6 年)

平成13年 (2001)	1・22 3・11	3・28	4・18 5・26	10・31	11・4	12・15	3・13	3・31	7・8	12・25	9・1	11・9 12・16	8・28	9・16	10・2	10・3	11・24 12・30	2・7 3・19	11・23 12・29	平成17年 (2005)
	「耐震改修促進法」に則り、平成12年度国庫補助金を得て大規模な耐震補強工事を実施・完了	政府主催のJICA技術研修員受け入れ事業の一環として「長期研修員特別研修武道演武会」を実施	日本武道代表団(現代武道9道、古武道2流派)、キューバ・ハバナへ	日本武道館研修センター開設三十周年記念式典を実施	日本武道館研修センター建物耐震補強工事および食堂拡張工事完了	「武道振興大会」に小泉純一郎内閣総理大臣が現職総理として初めて出席、「武道は心身を鍛え、礼節を重んじる、世界に誇る日本の文化である」と祝辞	現代武道9道を収録した武道プロモーションビデオ『日本の武道』が完成	政府主催の「ODA無償留学生文化研修武道演武会」を実施	平成9年からの電気設備変電・配電盤更新工事完了	初の外国語版単行本『我が空手人生』(金澤弘和著)の英語版『KARATE MY LIFE』を剣道ワールド社と協力、刊行	日本武道代表団(現代武道9道、古武道2流派)、トルコ・イスタンブールへ	第20回高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会の前日、高円宮妃殿下が受賞作品をご鑑賞	日本武道館開館四十周年記念事業として「武道憲章英文翻訳」改訂、「こども武道憲章」制定	武道功労者顕彰プレートが1階北口玄関正面に完成、除幕式挙行	日本武道館開館四十周年記念式典・祝賀会を小泉純一郎内閣総理大臣、河野洋平、扇千景衆参両院議長、中山成彬文部科学大臣を来賓に迎え、都内ホテルで盛大に挙行	既刊単行本9冊を「電子書籍」としてインターネットで販売開始	日本武道代表団(現代武道9道、古武道2流派)、ポルトガル・リスボンへ	3色・フルカラーLED電光掲示盤設備を更新(3回目)	日本武道代表団(現代武道9道、古武道2流派)、イタリア・ナポリへ	



開館40周年記念式典・祝賀会(平成16年)



武道功労者顕彰プレート除幕式(平成16年)

平成18年 (2006)	1月	建物構造体鉄筋コンクリート耐久・劣化診断実施
平成19年 (2007)	3・31	搬入搬出用リフター・ジブクレーン更新完了
	11・22～28	日本武道代表団(現代武道9道、古武道2流派)、スペイン・サラマンカへ
	2・27	塩川正十郎日本武道協議会会長が安倍晋三内閣総理大臣に「武道を必修正課に」と請願書を提出
	4・27	日本武道協議会設立三十周年記念式典・祝賀会を都内ホテルで挙行、記念事業として「こども武道憲章」「武道憲章英訳文」の掲示額を北口玄関ロビーに設置。また『日本の武道』を刊行、全国に約2万部を無料配布
	5・16	建築・設備維持保全推進協会の「第16回ベルカ賞ロングライフ部門」を受賞
	8・29	日本武道学会四十周年記念レセプション挙行。記念事業の一環として「武道学研究文献目録」の電子書籍化、「武道学研究データベース構築および電子書籍等の管理」事業に協力、助成
	10・27	日本武道代表団(現代武道9道、古武道2流派)、ポーランド・ワルシャワへ
平成20年 (2008)	11・2	「中学校学習指導要領」が改訂され、中学校1・2年の武道必修化が決定
	3・28	月刊「武道」5月号において中学校武道必修化に対応した「中学校武道授業の充実に向けて」が連載開始
	4・28	「中学校武道必修化」指導法研究事業準備打合会議を実施
	6・16	日本武道館研修センター太道場、宿泊棟など補修工事実施
	7月～9月	日本武道協議会「武道の理念」を制定。15日に文部科学省に提出
	10・10	2008年日伯交流100周年記念・ブラジル日本移民100周年記念事業として、日本武道代表団(現代武道9道、古武道3流派)、ブラジル・サンパウロへ。初めて単独事業として実施
	11・5～12	中学校武道必修化に向けた初の中学校武道授業指導法研究事業(弓道)を日本武道館研修センターで実施(以降、適宜現代武道9種目の研究事業を実施)
	11・28～30	地域社会武道指導者研修会において初めて中学校武道必修化に特化した研修会(剣道)を宮城県仙台市で実施(以降、毎年実施)
平成21年 (2009)	1・24～25	第1回千葉県中学校武道授業(柔道・剣道)指導者講習会開催
	2・1	日本古武道協会設立三十周年記念事業『日本古武道協会三十年の歩み』を刊行



中学校武道授業指導法研究事業
(弓道・平成20年)



ブラジル派遣日本武道代表団
(平成20年)



塩川日本武道館会長・日本武道協議会会長が中学校武道必修化の請願書を安倍首相に手渡した(平成19年)

平成21年 (2009)		平成22年 (2010)	
2・7	日本古武道協会設立三十周年記念式典を都内ホテルで挙	4・1	日本・オランダ通商400年記念事業の一環として、日本武道代表団(現代武
2・8	日本古武道協会設立三十周年記念・第32回日本古武道演武大会を40流派が出場し、日本武道館で開催	6・24〜26	道9道、古武道4流派)、オランダ・アムステルフェーンへ
3・6	日本武道館研修センター弓道場を建替、9人立の新道場完成	7・26	一般行施設設備利用規程を全面的に見直し、規程と利用料金を改定
3・31	擬宝珠の補修塗装工事完了	8・27	中学校武道必修化に対応した第1回全国中学校(教科)柔道指導者研修会開催
4月	毎年開催の「全日本少年武道錬成大会」の名称を「全日本少年少女武道錬成大会」に改称	8月、10月	ロシア青年招へい・日本古武道演武交流会開催
4・17	2016年オリンピック・パラリンピック東京招致活動として国際オリンピック委員会評価委員視察団を日本武道館に迎え、柔道のデモンストレーションを実施		第1回全国空手道指導者研修会を実施。新学習指導要領に準拠した『空手道指導の手引』を日本武道館と全日本空手道連盟共同で刊行
8・30	第25回高円宮杯日本武道館書写道大展覽会を、高円宮妃殿下ご臨席のもと、開催		地方青少年武道錬成大会の席上で開催地に伝わる古武道(鐘捲流抜刀術・岡山、北辰一刀流剣術・茨城)の紹介を実施(以降、毎年開催)
8・31	「武道の理念」を日本武道館北ロビーおよび第一・第二小道場に「武道憲章」とともに掲出		
10・10	日本武道館開館四十五周年記念事業として、「天皇陛下御即位二十年奉祝」日本武道祭」を秋篠宮同妃両殿下御臨席のもと、日本武道館大道場で開催。記念式典を都内ホテルで挙。記念事業の一環として、JKAの補助金を受け英語版『日本の武道』を刊行、国内及び海外155カ国に2万2000部を贈呈	10・15	日本武道協議会「中学校武道必修化各道共通指導内容」を承認、文部科学省に提出



天皇陛下御即位二十年奉祝財団法人日本武道館
開館45周年記念「日本武道祭」(平成21年)



日本古武道協会設立30周年記念式典(平成21年)

	8月・11月	第1回全国剣道指導者研修会を5ブロック（東海・北海道・九州・東方・関東）で実施
	10・3	第1回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会を開催（以降、毎年開催）
	11・10～17	日墨交流400周年記念事業の一環として、日本武道代表団（現代武道9道、古武道3流派）メキシコ・メキシコシティへ。この年から国庫補助対象事業として実施
平成23年 （2011）	2・6	日本古武道協会が新たな表彰規程に基づき、平成22年度古武道功労者2名を第34回日本古武道演武大会の席上で表彰
	5・11	東日本大震災の義援金2000万円を、日本赤十字社を通じ拠出。被災地からの要請で柔道畳250枚を避難所用に寄贈
	5・16	文部科学省に武道必修化の成功と書道教育の充実に関する要望書を提出
	6・23	『けが』をさせない柔道指導法―「投げ技編」を5000部刊行。全国の中学校保健体育科教員を中心に無料配布
	7・4	日本武道館研修センター開設四十周年記念事業として、勝浦市小学校高学年児童を対象に「武道体験教室」を開催
	8・28	月刊「武道」9月特大号を「中学校武道必修化」特集号として発行、全国の中学校・都道府県市区町村教育委員会へ約1万5000部を無料配布
	10・1	ホームページ上に「中学校武道必修化サイト」を開設
	10・8	日本武道館研修センター開設四十周年記念武道演武会、式典・祝賀会を実施
	11・9～16	日独交流150周年記念事業の一環として、日本武道代表団（現代武道9道、古武道3流派）、ドイツ・デュッセルドルフへ
平成24年 （2012）	2・9	日本武道館大道場ホール音響設備更新工事完了
	3・1	『財団法人日本武道館武道学園創立四十五周年記念誌』を刊行
	3・11	日本武道館武道学園創立四十五周年記念武道演武会、記念式典・祝賀会を実施
	3・28	中学校武道必修化について各都道府県及び政令指定都市の教育委員会に対し、初めてとなる事前アンケート調査を実施、その結果を月刊「武道」4月号に掲載
	4・1	中学校で「武道の必修化」がスタート
	4・28	全国都道府県立武道館協議会設立三十周年記念『全国都道府県立武道館協議会三十年史』を刊行

第1回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会(平成22年)

平成24年 (2012)		平成25年 (2013)		平成26年 (2014)	
10・31 〜	日印国交樹立60周年記念事業の一環として、日本武道代表团(現代武道9道、古武道3流派)、インド・デリーへ	11・23 〜25	全国武道指導者研修会(なぎなた)を武道必修化を含めた内容で実施	2・22 〜24	必修化に対応した第1回全国武道指導者研修会(弓道)を開催(9月に少林寺拳法、11月に合気道、12月に銃剣道を実施)
3・5	2020年オリンピック・パラリンピック東京大会招致活動の一環として国際オリンピック委員会評価委員視察団を日本武道館に迎え、柔道のデモンストラクションを実施	3・31	建物構造体外部鉄筋コンクリート中性化防止対策工事完了	4・1	内閣総理大臣から公益認定を受け、「公益財団法人日本武道館」として新たなスタート
4・29	安倍首相とプーチン大統領の日露首脳会談で、2014年を日露武道交流年とすることで合意	7・1	「日本・カンボジア国交樹立60周年記念事業」の一環として武道交流演武会を開催	9・4	「外国大使夫人招待なぎなた演武交流会」を開催
9・8	「2020年夏季オリンピック・パラリンピック」の開催地が東京に決定、柔道会場は日本武道館に内定	11・13 〜20	日・ASEAN友好協力40周年記念事業の一環として、日本武道代表团(現代武道9道、古武道3流派)、タイ・バンコクへ	11・27	東京都から建築物の安全性を示す「耐震マーク」を受理、西口玄関に掲出
12・26 〜27	国際武道大学と共催で国際武道大学創立三十周年記念、第30回若潮杯争奪武道大会を開催。優勝旗4旒新調	1・1	日本武道館では「武道」の英語表記を日本語を音写した「BUDO」に統一	1・5	第50回全日本書初め大展開会・席書大会を開催
1・13	日露武道交流年記念事業として「鏡開き式・武道始め」の鎧着初め・出陣式に、ロシア武道代表团3名が参加	2・1	日本武道協議会では「武道」の英語表記を日本語を音写した「BUDO」に統一	2・23	第50回全日本書初め大展開会・授賞式、第50回記念式典・祝賀会を挙行



2020年夏季五輪は東京での開催が決定し、柔道競技会場は日本武道館に内定(平成25年)



外国大使夫人招待なぎなた演武交流大会(平成25年)



公益財団法人として認定(平成25年)

平成27年 (2015)									
8・27	5・29 ～ 31	5・28	3・10	3・4	1月	12・8	11・5 ～ 12	10・5	10・4
女子指導に特化した柔道の中学校武道授業指導法研究事業を研究スタッフにも女子をそろえて初めて実施									
第30回高円宮杯日本武道館書道大展覧会・授賞式を、高円宮妃殿下のご臨席のもと開催									
必修化対応の第1回全国武道指導者研修会(相撲)を開催(12月に銃剣道を実施。武道全種目の全国指導者研修会を毎年実施)									
全日本空手道連盟からの要請を受け、松永光日本武道館・日本武道協議会会長から安倍晋三内閣総理大臣に対して、東京オリンピックにおける空手道採用の協力・支援を求める文書を提出									
日本武道館前広場で「ロシア連邦民族・伝統武道団交流演武」開催									
日本武道館開館五十周年「記念式典・日本武道祭」を、天皇后陛下をお迎えして開催。同、安倍晋三内閣総理大臣、伊吹文明衆議院議長、山崎正明参議院議長、丹羽秀樹文部科学副大臣、高村正彦武道議員連盟会長・自由民主党副総裁の列席のもと、「記念式典・祝賀会」を挙行									
2014年日露武道交流年記念事業の最大行事として、日本武道代表团(現代武道9道、古武道3流派)をロシア連邦・モスクワへ派遣、プーチン大統領列席国際オリンピック委員会臨時総会にて改革案「アジエンダ2020」が可決。開催都市に対し、その大会に限り競技追加提案権を与えることが盛り込まれた									
エスピノス世界空手連盟会長が日本武道館に来館。日本武道館は東京五輪に空手道が採用された際には、会場を提供することを確約									
武道振興大会において、中学校武道必修化が成功するため複数種目の実施拡大を図ることや、2020年東京オリンピック・パラリンピックで空手道の種目採用を要望する決議文が採択、下村博文文部科学大臣に手渡された									
『公益財団法人日本武道館五十年史』を刊行									
全国の武道館、武道場、町道場について、初めて実施した「全国武道館実態調査」の概要と結果を月刊「武道」6月号に掲載									
第16回世界剣道選手権大会が開催									
日本武道館がロシア連邦など諸外国との友好親善関係の増進に尽力したとして、平成27年度外務大臣表彰を受賞									



ロシア派遣日本武道代表团(平成26年)

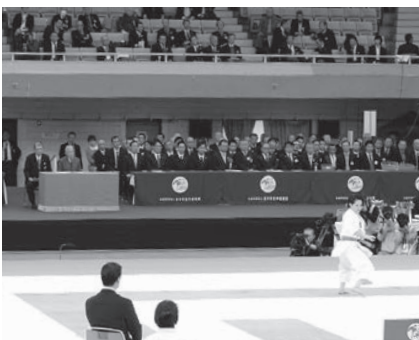


開館50周年記念式典・祝賀会
(平成26年)



公益財団法人日本武道館開館50周年
「記念式典・日本武道祭」(平成26年)

平成27年 (2015)	平成28年 (2016)		平成29年 (2017)
9・28	6・10	8・4	1・17
11・10 ～ 16	8・12 ～ 14	11・9 ～ 16	2・14
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が、空手を含めた5競技の大会種目への追加を国際オリンピック委員会に提案することを決定	日本・サウジアラビア王国派遣日本武道代表团がサウジアラビア王国リヤド市へ	平成28年熊本地震(4月)の被災地に対し、日本武道館から義援金として1000万円を、日本武道協議会、全国都道府県立武道館協議会より各500万円、合計2000万円を日本赤十字社を通じて拠出	次期中学校学習指導要領案を公表。武道種目については、柔道、剣道、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法の8種目を明記
日本・サウジアラビア王国外交関係樹立60周年記念事業のメイン事業として、サウジアラビア王国派遣日本武道代表团がサウジアラビア王国リヤド市へ	国際オリンピック委員会総会(ブラジル・リオデジャネイロ)で、2020年東京オリンピック競技大会の追加競技種目の一つとして「空手」の正式採用が決定	日本武道館武道学園の創立五十周年記念事業の一環として、静岡県武道館で校外授業を開催	平成29年武道振興大会において、次期中学校学習指導要領の実施可能種目に武道全9種目を並列明記することなどを要望する決議文が採択され、水落敏栄文部科学副大臣へ手渡された
日豪友好協力基本条約40周年事業の一環として、オーストラリア連邦派遣日本武道代表团がオーストラリア連邦シドニー市へ	天皇陛下がご臨席され、初の天覧試合として第44回全日本空手道選手権大会が開催。また、今大会より天皇盃・皇后盃が下賜	東京で行われた日露首脳会談で、安倍晋三内閣総理大臣とウラジミール・プーチンロシア連邦大統領が2018年を「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」とすることを合意	平成28年に五十周年を迎えた日本武道館武道学園の記念演武会が日本武道館小道場で156名を集めて開催。また記念・式典祝賀会はホテルメトロポリタンエドモントで210名を集めて開催
日本武道館武道学園の創立五十周年を記念し、各道講師代表者による記念座談会を開催	次期中学校学習指導要領が公示。銃剣道を含む武道全9種目が並列明記		



初の天覧試合として第44回全日本空手道選手権大会が開催(平成28年)



2020年東京オリンピックの追加競技種目として空手が正式採用(平成28年)

平成30年 (2018)										
9・10	8・28	8・20	7・18		5・23 ～ 30	3・30	3・28	1・8	11・8 ～ 15	6・10
日本武道協議会設立四十周年を記念して特別座談会を実施し、その内容を月刊「武道」5月号に掲載	日本武道協議会設立四十周年記念式典・祝賀会をホテルメトロポリタンエドモントで約180名が集まって盛大に開催。また、武道全9種目と武道編からなる中学校武道必修化指導書(10分冊)とDVD(全3巻)を刊行。全国の中学校、都道府県市区町村教育委員会等に累計5万部を無償配布	『公益財団法人日本武道館武道学園創立五十周年記念誌・DVD』を刊行	日本・マレーシア外交関係樹立60周年記念の一環としてマレーシア派遣日本武道代表团がマレーシア・クアラルンプールへ	2018年「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」の実施に先立ち、ロシア連邦スポーツ庁次官など3名が平成30年鏡開き式・武道初めに参加	日本武道館研修センターの宿泊者数が開館以来100万人を達成	次期高等学校学習指導要領が公示。「保健体育」では、選択必修である「武道」において武道9種目を並列明記	2018年「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」開会式に伴い、日本武道館「鏡開き式」代表团一行を派遣。26日に開会式が行われ、プーチン大統領、安倍総理大臣の両首脳が見守る中、「鏡開き」を披露。その模様はロシア全土でテレビ放送された	日本武道館中道場棟建設予定地で「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に伴う日本武道館増改修工事・安全祈願祭」が執り行われた	平成30年7月豪雨災害に対し、日本武道館から義援金として1000万円、日本武道協議会、全国都道府県立武道館協議会及び日本古武道協会から各500万円、合計2500万円を日本赤十字社を通じて拠出	平成24年度から完全実施された中学校武道必修化に関し、日本武道館の取組みについての特別レポートを月刊「武道」9月号に掲載
ロシア連邦ウラジオストクで行われた日露首脳会談直後の共同記者会見で、プーチン大統領が「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」として那覇・姫路にロシア武道代表团を派遣することを言及										



「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」開会式に日本武道館「鏡開き式」一行を派遣(平成30年)



中学校武道必修化指導書・DVD(平成29年)

令和元年 (2019)					平成31年 (2019)					平成30年 (2018)				
7・26、29	6・1	5・31	5・1		2・3	2・2	11・7、14		11・5	10・29、	10・5	9・30、	9・21	
今里譲スポーツ庁次長が日本武道館に来館し、高村正彦会長、白井日出男理事長に武道ツーリズムの推進について説明し、協力を要請					日本古武道協会設立四十周年記念式典・祝賀会が、高円宮妃殿下のご臨席を仰いで関係者250名が参加し、盛大に開催					北海道胆振東部地震(9・6)災害に対し、日本武道館から義援金として1000万円、日本武道協議会、全国都道府県立武道館協議会及び日本古武道協会から各500万円、合計2500万円を日本赤十字社を通じて拠出				
日本古武道協会設立四十周年記念『日本古武道協会四十年史』を刊行					日本古武道協会設立四十周年を記念し、第42回日本古武道演武大会を開催					日露交流事業として、「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」日本武道青年代表団44名(40歳以下で構成)をロシア連邦ハバロフスク市に派遣。演武大会の様子はリアルタイムで世界に配信された				
完成した日本武道館中道場の内覧会を実施					日本・インドネシア国交樹立60周年記念事業の一環として、インドネシア共和国派遣日本武道代表団74名をインドネシア共和国ジャカルタ市に派遣					「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」の一環として、ロシア武道代表団66名が来日。10月31日に沖縄県豊見城市の沖縄空手会館で、11月3日に兵庫県姫路市のウイंक武道館(兵庫県武道館)で日本の武道団体とともに武道交流演武大会を実施				
令和に改元					日本古武道協会設立四十周年を記念し、第42回日本古武道演武大会を開催					「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」の一環として、ロシア武道代表団66名が来日。10月31日に沖縄県豊見城市の沖縄空手会館で、11月3日に兵庫県姫路市のウイंक武道館(兵庫県武道館)で日本の武道団体とともに武道交流演武大会を実施				
今里譲スポーツ庁次長が日本武道館に来館し、高村正彦会長、白井日出男理事長に武道ツーリズムの推進について説明し、協力を要請					日本古武道協会設立四十周年にあたり、日本古武道協会役員、流派代表者による特別座談会を実施し、その内容を月刊「武道」3月号に掲載					北海道胆振東部地震(9・6)災害に対し、日本武道館から義援金として1000万円、日本武道協議会、全国都道府県立武道館協議会及び日本古武道協会から各500万円、合計2500万円を日本赤十字社を通じて拠出				
日本古武道協会設立四十周年記念『日本古武道協会四十年史』を刊行					第1回外国人留学生対象国際武道文化セミナーが日本武道館研修センターで開催され、30の国・地域からクロアチア大使を含む75名が参加					日露交流事業として、「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」日本武道青年代表団44名(40歳以下で構成)をロシア連邦ハバロフスク市に派遣。演武大会の様子はリアルタイムで世界に配信された				
完成した日本武道館中道場の内覧会を実施					スポーツ庁の中学校武道授業の充実に向けた武道等指導充実・資質向上支援事業において、2019年度は複数の武道種目を選択する「武道推進モデル校」を全国の中学校で指定					「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」の一環として、ロシア武道代表団66名が来日。10月31日に沖縄県豊見城市の沖縄空手会館で、11月3日に兵庫県姫路市のウイंक武道館(兵庫県武道館)で日本の武道団体とともに武道交流演武大会を実施				

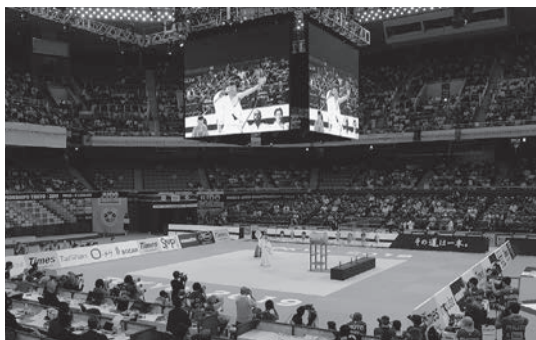


「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」
ロシア武道代表団日本招聘事業(平成30年)



「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」
日本武道青年代表団ロシア連邦派遣事業(平成30年)

	8・25 9・1	9・2	9・6 8	9・9	9・10	9・28	10・1	10・3	
	東京五輪のテストイベントである2019世界柔道選手権東京大会が日本武道館で開催。日本武道館中道場が初めて供用された。大会期間中、8月26日に弓道、28日に合気道、30日になぎなたと銃剣道、31日に相撲と空手道、9月1日に少林寺拳法と剣道の武道デモンストレーションが披露された	武道ツーリズム研究会が初会合。日本武道館役員など45名が出席し、官民一体となって研究討議を行う	東京五輪のテストイベントである空手1プレミアリーグ2019東京大会が日本武道館で開催。大会期間中、9月8日に合気道となぎなたの武道デモンストレーションが披露された	東京五輪のテストイベントであるREADY STEADY TOKYO―空手が開催	東京オリンピック・パラリンピックの会場となる日本武道館の増改修工事に伴い、日本武道館が全館休館。その間、事務局は北の丸公園内の仮設事務所に移転	月刊「武道」10月号において「武道ツーリズムの輪を拡げよう」の連載開始	動画共有サービス「YouTube」に新たなチャンネル「公益財団法人日本武道館」を開設	萩生田光一文部科学大臣、森喜朗東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長の列席のもと、約480名が出席し公益財団法人日本武道館開館五十五周年記念式典・祝賀会を挙行	



世界柔道選手権東京大会で武道デモンストレーションを実施（写真は弓道・令和元年）



日本武道館中道場棟が完成（令和元年）

好評発売中

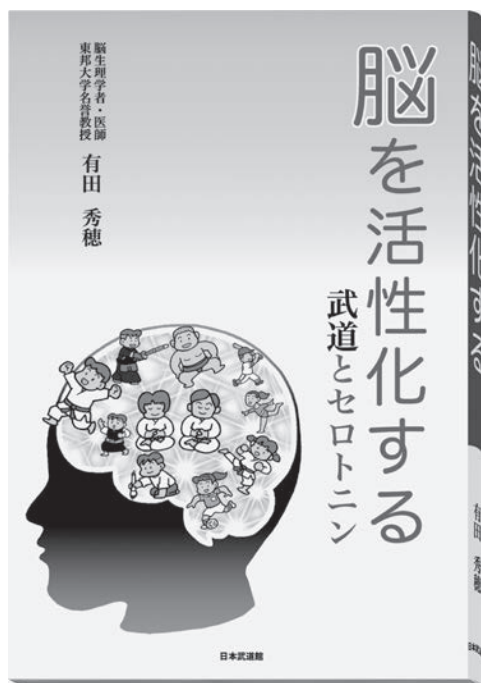
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン
ストレスとしごき
空海はセロトニン活性の達人
『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング
沢庵の「不動智」とワーキングメモリー
不動明王と心の三原色
『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識
悪夢を消すには？
精進料理とセロトニン合成
「茶の湯」とセロトニンの生活
「自然に体が動いた」を脳科学で解く
勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する
「武道の礼法」は社会脳を育む
相撲の「四股」は品性を育む
書道も心技体の人間修行
アンドロゲンと闘争心
日本の祭にはセロトニンがたっぷり
スキップとオキシトシン
空手の稽古は坐禅修行に通じる
脳は「丹田呼吸法」をどう操るか
試合における最適な覚醒状態
サイエンスは「気」をどこまで解明したか
仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光
東邦大学名誉教授 有田 秀穂

：他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)

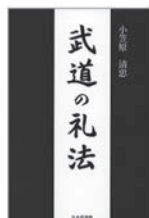


武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

(四六判・上製・248頁)

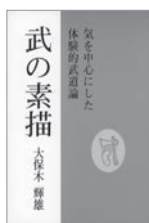


武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

天皇盃を受ける石川嵩録士六段（右）



天皇盃第70回
全日本男子弓道選手権大会
皇后盃第52回
全日本女子弓道選手権大会

第10回鹿島神宮奉納
日本古武道交流演武大会



鹿島新當流剣術

天皇盃第70回全日本男子弓道選手権大会

石川 嵩

錬士六段
(大分)

が初の天皇盃獲得



天皇盃第70回全日本男子弓道選手権大会は9月20日～22日の3日間、三重県伊勢市の神宮弓道場で、全国から選出された110名の代表が参加して開催された。

大会では、決勝で3名が10射皆中で並んだ末、石川嵩^{いしかわ たかし}(大分)が射詰競射を制して初優勝を飾った。また、坂本達雄^{さかもと たつお}(青森)が3年連続となる最高得点賞に輝いた。

予選は各自4射(一手2回)を行い、4射中2中以上の得点上位者20名を選出。決勝は各自10射(一手5回)を行い、的中制により順位を決定した。最上位者が多数の場合は優勝者決定まで射詰競射を行い、優勝以外の順位は遠近競射で決定した。

男子

20日の開会式では、今年8月に新しく全日本弓道連盟会長に就任した増田規一郎大会会長が挨拶し、開会式終了後、矢渡が行われた。

21日は予選が行われ、110名の選手が決勝を目指して競った。最高得点は、4中・1527点の坂本達雄（青森）が3年連続で受賞。昨年優勝の鹿野伸一（東京）は1中で予選敗退となった。

22日の決勝では台風17号が迫るにもかかわらず、観客席は満席となり、今年の弓道日本一が誕生する瞬間を見守った。

決勝開始から時折、幕が揺れるほどの強風が吹く中、4回目を終えて皆中の可能性を残したのは、森本浩

之（愛媛）、成田祐也（秋田）、石川嵩（大分）の3名に絞られた。

5回目、安定の射を見せる森本、成田、石川は9射目もしっかり中てる。10射目に入り、まず森本が引くと、矢は的のほぼ真ん中に中たり10射皆中。負けじと成田、石川も的を射抜いて10射皆中となり、勝負は射詰競射に持ち込まれた。4位には惜しくも9中の朝田晋輔（静岡）が入賞した。

森本、成田、石川による優勝を賭けた射詰競射は、雨が降りしきる中での実施。1本目、雨音しか聞こえない静寂の中、3名とも確実に的中させる。緊張感が高まる2本目、まず森本が引くと惜しくも矢は外れ、会場からは溜め息が漏れる。続く成田も外すと、今度は会場がざわめく。会場中の視線が集まる中、石川は落ち着いて会に入り、矢を放つ。石川の矢は小気味良い音を立てて見事的中し、接戦を制した石川に観客から惜しめない拍手が送られた。

2・3位決定の遠近競射の末、成田が2位、森本が3位となった。また5位には遠近競射によって平澤敏弘（長野）が入賞した。

矢渡＝岡崎廣志範士八段

立順	氏名	所属	予選			決勝										的中	射詰	遠近競射	順位
			的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩				
1	森本 浩之	愛媛	4	1437	19	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	○ ×	2	3
2	櫻田 紀行	香川	4	1471	2	×	○	○	×	○	×	×	○	○	×	5			
3	朝田 晋輔	静岡	4	1453	11	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	9			4
4	當房 孝之	宮崎	3	1446	14	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	3			
5	田中 成和	千葉	3	1446	15	×	×	×	○	×	×	○	○	×	×	3			
6	成田 祐也	秋田	4	1457	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	○ ×	1	2
7	平澤 敏弘	長野	4	1449	13	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	8		1	5
8	坂本 達雄	青森	4	1527	1	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	7			
9	才川 義昭	大分	3	1436	20	○	×	×	○	○	○	×	×	×	×	4			
10	石川 嵩	大分	4	1441	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	○ ○		1
11	佐藤 昌仙	岩手	3	1454	10	×	○	×	○	○	○	○	×	×	○	6			
12	飯山 雄介	宮城	4	1466	5	○	×	○	×	○	○	○	×	○	○	7			
13	安倍 智	大分	4	1462	7	×	○	×	×	×	○	○	×	×	○	4			
14	小原 裕幸	島根	3	1452	12	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	8			
15	増淵 敦人	栃木	3	1471	3	○	×	○	○	○	○	×	×	○	×	6			
16	佐藤 史成	青森	2	1468	4	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	8			
17	佐々木光彦	秋田	2	1457	9	○	○	×	×	×	○	○	×	×	○	5			
18	瀧谷 佳史	徳島	3	1440	17	×	○	×	○	○	×	○	○	○	○	7			
19	多湖 賢治	三重	3	1466	6	○	×	○	×	×	○	○	○	○	○	7			
20	山本 一輝	熊本	3	1440	18	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	6			

優勝インタビュー

家族の期待を力にして

◎優勝Ⅱ石川嵩鍊士六段（大分）
いしかわたかし



「ただただ驚いています。いつか立ちたいと思っていた憧れの場所、まさか優勝できるとは夢にも思っていませんでした」

初優勝を飾った感想を率直に語った石川選手は、大分県別府市にある明豊高校で教壇に立ち、数学を教えている。高校では弓道部の顧問を務めながらも稽古に励み、指導者と競技者、二足のわらじを履いている。

「生徒が真面目に弓を引いてくれているので私も一生懸命指導しています。私が全力で引くことで生徒に良い影響を与えられたらいいですね」
教員として多忙を極めながらも努力し続けるには、家族の支えが欠かせない。

せない。

「私には妻と、4歳と1歳になる息子がいます。以前は部活が終わって一度家に帰り、子どもたちを寝かせた後、道場に戻って21時頃から1時間程度引いていました。最近、部活が終わって1時間ほど引いてから家に帰ります。妻の支えがなければ県予選にすら出られていません。長男には『誰にも負けないでね』と言われてるので、良い報告ができそうです」

最後に、連覇に向けての取り組み方を聞いた。

「来年のことはまだ考えられませんが、支えてくれる家族には感謝しています。この舞台に立てるだけで幸せです」

たゆまぬ努力によって、石川選手は憧れの舞台で初の栄冠を勝ち取ることができた。家族の期待を背負う32歳の数学教師は、弓の道を歩み続ける。

○準優勝Ⅱ成田祐也鍊士六段（秋田）
なりたゆうや

「初出場でもとても緊張したので、今はほっとしています。東北の予選会には挑戦し続けていたのですが、非常にレベルが高くて、なかなか勝ち抜くことができませんでした。今回の大会には勉強させていただくつもりで臨みました。周りの選手の皆さんには、わからないことを優しく教えていただき、リラクセスできました。今後は毎年この舞台に立てるよう、研鑽していききたいです」

▽3位Ⅱ森本浩之教士六段（愛媛）
もりもとひろゆき

「初めての入賞なので嬉しいです。射詰競射に入ると結果を意識して、射の方の気持ちがいってしまつたのが反省点です。まずは来年も出ることを目標です。また、今回はギリギリで予選を通過したので、体配など未熟な面も修正していきたいです。

愛知県の本多政和先生には愛媛国体の時から指導いただいており、先生のキレのある弓を目指しています。まだまだです」

▽4位Ⅱ朝田晋輔教士六段（静岡）
あさだしんすけ

「1本外して4位になってしまったので、残念としか言いようがないですね。稽古のやり直しです。全日本選手権の形式で毎日練習を続け、休むことがないように、仕事が遅くても必ず道場に行つて稽古していました。結果として、納得のいかない射が出てしまったという感じです。会

の時には十分伸びがあつてよかったのですが、離れが良くなかったですね。来年はもちろん天皇盃獲得が目標です」

▽5位Ⅱ平澤敏弘教士六段（長野）
ひらさわひろひろ

「理想とする射ができなくて情けないです。8中でしたが、射の内容としては恥ずかしい限りです。的中云々よりも射の内容を改善していきたいです」

▽最高得点賞Ⅱ坂本達雄教士七段
さかもとたつお

（青森）

「正直、賞の重みをプレッシャーに感じています。正しい射を目指しながら、入場から退場まで全てが美しいものを作り上げ、真善美を意識して立ち居振る舞いを戒めたいですね。そしてそれが弓道の理想であり、私の目標です」



開会式の様子



開会式で挨拶する全日本弓道連盟新会長の
増田規一郎大会会長



最高得点賞＝坂本達雄教士七段



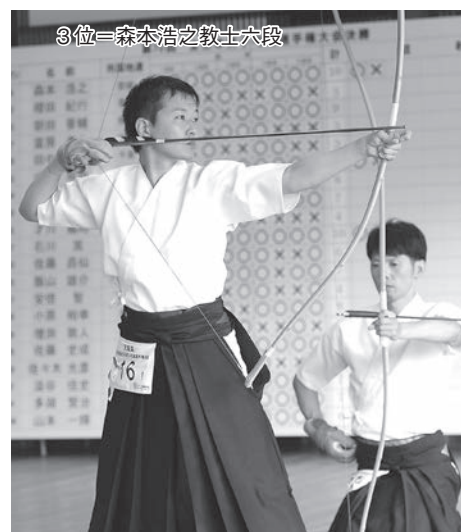
準優勝＝成田祐也錬士六段



5位＝平澤敏弘教士六段



4位＝朝田晋輔教士六段



3位＝森本浩之教士六段

皇后盃第52回全日本女子弓道選手権大会

村川春圭

錬士六段
(岩手)

が初出場で優勝

皇后盃第52回全日本女子弓道選手権大会は9月22日～24日の3日間、全国から選抜された107名の代表選手が三重県伊勢市の神宮弓道場に参集し、開催された。

大会では、むらかわはるか村川春圭(岩手)が9中で初出場ながら優勝を飾った。また、いわきりくみ岩切久実(宮崎)が初めて最高得点賞を獲得した。

男子と同様、予選は各自4射(一手2回)を行い、4射中2中以上の得点上位者20名を選出。決勝は各自10射(一手5回)を行い、的中制により順位を決定した。最上位者が多数の場合は優勝者決定まで射詰競射を行い、優勝以外の順位は遠近競射で決定した。



女子

22日は開会式、矢渡が行われた。

23日は107名によって予選が行われ、岩切久実（宮崎）が4中・1465

点で初の最高得点賞を受賞した。本

誌に「死ぬまで弓道」を連載中の小

牧佳世（京都）は予選を2位で通過。

昨年、優勝と最高得点賞を勝ち取った斎藤美智子（静岡）は予選で敗退となった。

24日は決勝が行われ、2回目を終

了し、初出場の村川春圭（岩手）と

廣瀬詠里子（熊本）、出場12回目となる小牧の3名が4中となる。

3回目、村川は5本目で失中する

も、立て直して6本目を中てて5中

で踏みとどまる。廣瀬も村川と同

様、1本失中して5中。小牧は2本

外して後れを取る。

4回目は村川、竹下知朋（佐賀）、

濱崎奈美江（熊本）、廣瀬の4名が

5中で迎える。村川と濱崎は確実に

2本中てて7中。竹下、廣瀬は1本

ずつ外し、優勝争いから一步後退。

小牧は1本外して5中となる。

村川、濱崎の2名が7中、次いで

竹下、廣瀬、越能公子（石川）、市

川政子（埼玉）の4名が6中で、勝

負の5回目に移る。村川は落ち着い

て9本目を射抜くが、7中で並んで

いた濱崎は9本目を痛恨の失中。10

本目、ここで中てれば優勝が決まる

村川はやや震えながら会に入る。村

川が放った矢は的に吸い込まれて的

中。その瞬間、初出場ながら頂点に

立った村川は大きな拍手に包まれ

た。濱崎は10本目を中てて、8中で

準優勝を決める。竹下、廣瀬、市川

はそれぞれ1本ずつ外して7中。越

野は2本外して6中で終わった。

3・4・5位決定のための遠近競

射は7中の竹下、廣瀬、市川と5回

目で2本の中させた田中美和（長

崎）の4名によって行われ、3位が

田中、4位が廣瀬、5位が竹下とな

矢渡＝宇佐美義光範士八段

立順	氏名	所属	予選			決勝										的中	遠近競射	順位
			的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
1	田中 美和	長崎	4	1427	12	○	○	×	○	×	○	×	○	○	○	7	1	3
2	額綱かつ江	岐阜	2	1425	17	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×	3		
3	伊藤紀美子	三重	2	1430	11	×	○	○	○	○	×	×	○	×	○	6		
4	畠山 康	秋田	3	1440	5	○	×	×	×	×	○	×	○	○	○	5		
5	村川 春圭	岩手	3	1433	8	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	9		1
6	小牧 佳世	京都	3	1451	2	○	○	○	○	×	×	×	○	○	×	6		
7	竹下 知朋	佐賀	2	1432	9	○	○	×	○	○	○	○	×	○	×	7	3	5
8	濱崎奈美江	熊本	3	1427	13	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	8		2
9	廣瀬詠里子	千葉	2	1427	14	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	7	2	4
10	越能 公子	石川	4	1430	10	○	×	○	○	×	○	○	○	×	×	6		
11	高井 幸子	福島	2	1448	4	×	×	×	×	×	○	○	×	×	○	3		
12	鹿野 信恵	埼玉	2	1436	7	×	○	×	×	○	○	○	○	○	×	6		
13	高埜よしみ	山梨	3	1426	16	×	○	○	×	○	○	○	×	×	×	5		
14	市川 政子	埼玉	2	1424	18	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	7		
15	林 秀子	奈良	2	1423	20	○	×	×	○	○	×	×	○	○	○	6		
16	大林登志美	富山	4	1436	6	×	○	○	×	×	×	○	×	○	×	4		
17	前田かおり	東京	4	1426	15	○	×	○	○	○	×	○	×	×	○	6		
18	岩切 久実	宮崎	4	1465	1	○	×	×	×	×	×	○	○	○	○	5		
19	中崎千恵子	広島	3	1449	3	×	×	○	○	○	×	○	×	○	×	5		
20	西脇 早苗	岐阜	3	1423	19	○	×	○	×	○	○	×	○	×	○	6		

優勝インタビュー

初優勝は飽くなき探求の始まり

◎優勝Ⅱ村川春圭むらかわはるか錬士六段（岩手）



「もう何がなんだかよくわからないです。とても驚いています。全く実感がありません」

決勝では勝負所で落ち着いて的中させた村川選手。しかし試合終了後は、初出場で皇后盃を手にした快挙をまだ受け入れられていない様子だった。

初めての全日本選手権に向けて、どのように練習してきたのか。

「毎日、できるだけ道場に行き、時間が無い時でも30分は引くようにしています。選手権の予選は採点制なので決勝に進出できないと思っていました。5年前の長崎国体では優勝しましたが、国体は団体戦なので、

個人戦である今大会とはまた違います。選手権は上手うまいくのも失敗するの、全て自分の責任になります」そうして臨んだ今大会を振り返ってもらった。

「これまで会を充実させようと、あの程度は練習してきたつもりでしたが、本番になると上手いかない部分もあり、練習の半分くらいしかできませんでした。緊張した時に力が出せないということは、身についていない証拠でしょうね」

最後に、今大会の自分に点数をつけてもらった。

「結果としては100点ですが、射形などの内容を含めると50点くらいですかね。中てたいという気持ちで前面に出てしまいました」

初出場での優勝。普通なら手放しで喜んでしまいそうな結果だが、村川選手は違った。弓道人としての飽くなき探求は始まったばかりなのだろう。

○準優勝Ⅱ濱崎奈美はまさきなみ江教士六段（熊本）

「内容的に基本ができていないので納得するところはありませんでした。一から練習しなきゃいけません。決勝では村川選手と途中まで並んでいたことは知らず、自分の射をやっただけです。決勝まで初めて進んだのですが、今まで出場した4回とは特に成長したと感ずる部分はありません。これからは基本を見直して頑張りたいです」

▽3位Ⅱ田中美和たかみわ錬士五段（長崎）

「まさかここまで来られるとは思っていませんでした。驚いています。去年初めて出場しましたが、去年より落ち着いて引けたと思います。皆さんの射を見て、離れの強さや迫力が違うなと感じました」

▽4位Ⅱ廣瀬詠里子ひろせえりこ錬士六段（千葉）

「入賞を考えずに、ここに来られたことに感謝して、のびのびと引かせていただきました。大会に向けては一射一射丁寧に、悔いのないように引いてまいりました。来年は今回の結果を超えたいですが、まずは見え

た課題を一つ一つクリアしていきたいです」

▽5位Ⅱ竹下知朋たけしたともえ教士六段（佐賀）

「なんとか5位に入賞できて嬉しいです。私は手先で引いてしまう癖があるので、全日本に向けて、お腹で引けるように心掛けながら練習してきました。今後もキレのある射を目指していきたいです」

▽最高得点賞Ⅱ岩切久実いわきりくみ教士七段（宮崎）

「まだ信じられませんが、とてもありがたいです。いつも指導いただいていることを氣をつけて、今できることを精一杯しようと思いました。順位云々よりも、少しでも格好いいと思われるような射を身につけ、来年に向けて練習を積んでいきたいです」



▶皇后盃を受ける
村川春圭錬士六段(右)



最高得点賞＝岩切久実教士七段



準優勝＝濱崎奈美江教士六段



5位＝竹下知朋教士六段



4位＝廣瀬詠里子錬士六段



3位＝田中美和錬士五段

●最新刊

漫画家・
別府大学教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道の偉人たち

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯を描く！

マンガ・武道の偉人たち

田代しんたろう



日本武道館

B5判・302頁・本体1000円＋税

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。

人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道の現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。

大人も子供も楽しく読んで、歴史も学べる武道教養マンガ。



収録偉人一覧

嘉納治五郎(柔道) 高野佐三郎(剣道) 阿波研造(弓道) 双葉山(相撲)
船越義珍(空手道) 植芝盛平(合気道) 宗道臣(少林寺拳法)
園部秀雄と美田村千代(なぎなた) 鶴沢尚信(銃剣道)

編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

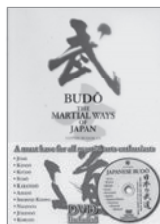
日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部

第10回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会 過去最多の37流派が伝統の奥技を披露



鹿島新當流剣術

10月6日、第10回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会（主催Ⅱ日本武道館・日本古武道協会）が武神・武甕槌大神を祀る鹿島神宮（茨城県鹿嶋市）内の特設演武場で開催された。本大会は、全国から過去最多の37流派167名が奉納演武を行った。会場には延べ約1700人を超える観客が詰めかけ、各演武を見守った。大会当日はあいにくの曇り空となったものの、演武者たちは魂の込める気迫に満ちた演武を披露した。

大会当日は午前9時より参加者全員で昇殿参拝を行い、記念撮影した。その後、開会式となり、内田康介日本古武道協会理事・事務局長の開会宣言と国歌斉唱の後、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長（日本古武道協会常任理事）が、主催者挨拶を行った。

「第10回の記念すべき鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会が全国37流派・167名の参加者をお迎えして、鹿島の大神様の前で盛大に開催できますことを、主催者として厚く御礼申し上げます。この演武会が始まった当初は様々な心配がありました。し



鹿島則良
鹿島神宮宮司



錦織孝一
鹿嶋市長



三藤芳生
日本武道館常任理事・事務局長

かし、神宮の鹿島宮司、鹿嶋市長、鹿嶋市関係団体の皆様のご尽力、そして日本古武道協会会員の先生方のご支援をいただき、本大会はこまで順調に発展し、充実した10回目を迎えることができました。今後は古武道の発展のため、文化財の認定等を含め、活動していく予定です。先生方には、今後も流儀・流派の継承を發展させていただきたいと思いま

す。古武道の普及・振興において、鹿島の武甕槌大神の前で演武ができることは非常に大きな意義を持つています。本日の大会が参加者にとつて素晴らしい経験、交流になりますことを期待しております」

次に錦織孝一鹿嶋市長より、祝辞が述べられた。

「今日は10回目の鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会が武の神である武甕槌大神の御前で37流派167名の参加者を集い、開催できることを地元として非常に嬉しく思っております。鹿嶋市は無敗の剣聖と言われた塚原卜伝の生誕の地でもあり、今でも鹿島新當流という流派で脈々とその伝統と技を受け継いでおります。参加者の皆様は日頃から鍛錬を積まれ、技を磨いてきていると思います。ぜひ各流派の伝統的な技をご披露いただきたく存じます」

その後、鹿島則良鹿島神宮宮司より歓迎の言葉が述べられた。

「今年は本大会が10回目ということで、武甕槌大神様も毎年この時期を待っておられるのだらうと思っております。参加者の皆様は普段の稽古で培ってきた成果をしっかりと神様

の前で奉納していただけたらと思います。長い歴史を継いできた参加者の皆様におかれましては、日本の心を武道を通して次の世代へ引き継いでいただき、日本の国をより力強い国にしていだだきたいと思っております。皆様の演武を楽しみにしております」

開会式後、演武大会の幕が上がった。

演武は鹿島神宮内参集殿前に設えられた特設演武場で行われ、天真正伝香取神道流剣術を皮切りに全国から集まった37流派の演武が次々と披露され、静寂の中、激しくも洗練された技の数々が多くの観客を魅了した。午前10時から約4時間半続いた演武会は地元流派である鹿島新當流剣術が締めくくった。

最後に鈴木達也日本武道館振興部長が閉会宣言を行い、大会は盛会裡に幕を閉じた。



参加者による記念写真



宝蔵院流高田派槍術



長谷川流和術



尾張貫流槍術



兵法二天一流剣術



小野派一刀流剣術



天真正伝香取神道流剣術

脈々と受け継がれし技を
次世代へ



竹内流柔術腰廻小具足



天然理心流剣術



大東流合気柔術琢磨会



無雙直傳英信流居合術



立身流兵法



荒木流拳法



天道流薙刀術



竹生島流棒術



関口流抜刀術



金硬流唐手・沖縄古武術



無比無敵流杖術



琉球王家秘伝本部御殿手



天神真楊流柔術



柳生新陰流兵法剣術



神道夢想流杖術

新刊のお知らせ

「正しい型」の
力を知る。



泊手「突き」本

沖縄拳法空手道冲拳会
師範 山城美智 著

商品番号：BOK-461

内容：四六判 240ページ

価格：2,800円（税込）

重心を伝えるからパワーに頼らない
起ころが見えないから
スピードに頼らない……
格闘家 菊野克紀 推薦



沖縄拳法
空手道連盟
会
沖拳会

CHAMP 商品のお問合せ・ご注文はこちらまで

TEL 03-3315-3190

受付時間 9:30~18:30 定休日 日・祝日

FAX 03-3312-8207

<http://www.champ-shop.com>



戸田派武甲流薙刀術



北辰一刀流剣術



沖縄剛柔流武術



柳生心眼流體術



心月夢想柳流柔術



兵法タイ捨流





荒木流軍用小具足



氣楽流柔術

10回目の鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会を迎えて



鹿島則良
鹿島神宮宮司

甕槌大神の「師霊剣」の神威により救われたという出来事から、日が武の聖地と呼ばれるようになりました。

古武道を修行される方々が一堂に介して、奉納演武を行っていただけたということは、神様が一番喜ぶことではないかと思えます。毎年全国各地からたくさんの方の流派の方がお集まりいただき、普段の稽古の成果をご披露いただけること、そしてそれが今年で10年続いたということは本当に有難いことであります。今後このような機会を次の世代へ繋いでいくことが大切なのだと感じております。

【出場流派 参加者】

- ① 天真正伝香取神道流剣術（飯篠宏太、京増重利、荒野祥司、成毛弘、櫻井俊也）
- ② 沖繩剛柔流武術（山城勝也、米里吉則、戸田雄紀、若林義昌、村上実）
- ③ 竹生島流棒術（松浦寛澄、岩永雅彦、迎俊明、ミヒヤエル・ラインハート）
- ④ ト傳流剣術（小山秀弘、小山隆秀、小山花恵）
- ⑤ 竹内流柔術腰廻小具足（竹内藤十郎、竹内秀将、竹内勢至）
- ⑥ 宝蔵院流高田派槍術（一箇順三、ユルゲン・ゼーベック、加藤了嗣、西堀清作、山田一嘉）
- ⑦ 兵法二天一流剣術（加治屋孝則、前田典子、吉原晴次、月森慎悟）
- ⑧ 関口流抜刀術（中山洋一、林憲一、中島健志、本庄弘幸）
- ⑨ 天道流薙刀術（木村恭子、中段亜由美、木村有里、清水真由美）
- ⑩ 兵法タイ捨流（田添信一郎、井上義一）
- ⑪ 為我流派勝新流柔術（根本憲一、村木浩治、沢幡伸男、渡辺文男）
- ⑫ 荒木流軍用小具足（豊田良樹、千葉明、片桐克彦、河野真一、鶴岡嘉治、鶴岡優子）
- ⑬ 天然理心流剣術（時田由記、常田貞行、小林恵子、松本賢司、平本輝彦、須田英宏）
- ⑭ 大東流合気柔術琢磨会（福岡慎輔、三上篤志、坂本雄二、中岡飛鳥）
- ⑮ 伯耆流居合術（大窪敏明、桑波田秀祐、井上優一郎）
- ⑯ 立身流兵法（加藤紘、加藤敦、吉田龍三郎、八角敏正、栗原実、近藤恭弘）
- ⑰ 尾張貫流槍術（下村幸裕、下村直樹、赤羽根大介、若尾洋子）
- ⑱ 長谷川流和術（桑原巡、宮下邦博、倉田勝己、逸見彰一、石原賢一、小野晴佳）
- ⑲ 心形刀流剣術（小林強、原謙一、振角卓哉）
- ⑳ 心月無想柳流柔術（八島和雄、吉岡勝子、奥村宗一郎、仲尾昭二、石津圭広）
- ㉑ 荒木流拳法（菊池邦光、西川二郎、細野桂一、鈴木荒一、鈴木崇史）
- ㉒ 柳生新陰流兵法剣術（柳生耕一、葭谷努、星川宣禎、竹内孝幸、洲上俊顕、寺田裕昭）
- ㉓ 戸田派武甲流薙刀術（建入久代、介川隼人、本多日向子）
- ㉔ 無比無敵流杖術（安二郎、大和久正幸、落合脩治、久野周也）
- ㉕ 無雙直傳英信流居合術（関口高明、野口富久子、清水延子、中野園子、尾上政人、竹内香織）
- ㉖ 北辰一刀流剣術（小澤智、上田忠夫、吉田信二、田中榮治、兼子勝喜、桐原英夫）
- ㉗ 氣楽流柔術（反町明大、大塚良太郎、船田清）
- ㉘ 柳生心眼流體術（梶塚靖司、藤澤勝也、白川竜、大坪博憲）
- ㉙ 神道無念流剣術（小川武、萩崎昭、土屋正則、玉根純也、浅野史明）
- ㉚ 琉球王家秘伝本部御殿手（中宮誠、加藤慎一、片山修、石崎順二、勝沼悠、島海真）
- ㉛ 天神真楊流柔術（柴田孝一、柴田俊充、松浦富士雄、阿部岳春、今野賢太、加藤宏基）
- ㉜ 小野派一刀流剣術（矢吹裕二、石崎徹、浅井雅史、鈴木宏哉、門松猛）
- ㉝ 神道夢想流杖術（関展秀、小橋進）
- ㉞ 鞍馬流剣術（柴田章雄、東山誠、松尾和夫、吉田稷寛、渡辺良雄、松井康二）
- ㉟ 金硬流唐手・沖繩古武術（早坂ゆかり、佐々木透、早坂義文、江幡妙子）
- ㊱ 大東流合気柔術（近藤昌之、吉澤隆明、白山秀遠、トルーデル・マーク、池嶋勝則）
- ㊲ 鹿島新當流剣術（内田嘉昭、橋本大、横尾廣美、今井淳也、小松崎政史）

以上、37流派・167名参加

日本古武道交流演武大会の開催に先立ち
術技交流研修会・懇親会を開催

術技交流研修会は本大会前日の10

月5日、鹿島神宮武徳殿で行われた。各流派の参加者たちは脈々と継承されてきた技を互いに修練し合い、翌日の本番に備えた。

その後、会場を移し、懇親会が新仲家で開催された。会には参加者をはじめ、地元協力団体など、195名が出席した。まず、主催者を代表して臼井日出男日本武道館理事長・日本古武道協会理事長が挨拶を行った。続いて、川村等鹿嶋市教育長が来賓祝辞を、鹿島則良鹿島神宮宮司が歓

迎の言葉をそれぞれ述べた。

次に鏡開きとなり、臼井理事長、川村教育長、吉川常隆鹿島新當流剣術第65代宗家、鹿島宮司、三藤芳生常任理事・事務局長（日本古武道協会常任理事）の5名で盛大に打ち割った。そして、三藤常任理事・事務局長の発声で乾杯が行われた後、参加者たちは懇談に花を咲かせた。最後に内田康介日本古武道協会理事・事務局長が中締め挨拶を行い、参加者が大会の成功を願って、万歳三唱をして、閉会となった。



術技交流研修会の様子



懇親会での鏡開き

マンガ・武道の偉人たち
田代しんたろう



マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

B5判・302頁・本体1,000円+税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。
収録偉人一覧：嘉納治五郎（柔道）、高野佐三郎（剣道）、阿波研造（弓道）、
双葉山（相撲）、船越義珍（空手道）、植芝盛平（合気道）、宗道臣（少林寺拳法）、
園部秀雄と三田村千代（なぎなた）、鶴沢尚信（銃剣道）

ご注文・お問い合わせ 日本武道館 月刊「武道」編集部 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp> インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索!

好評発売中

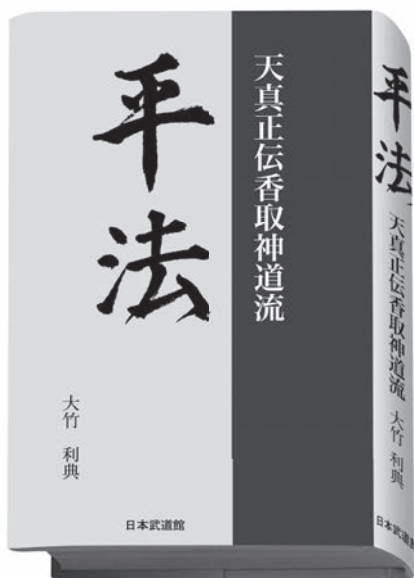
天真正伝香取神道流 師範

大竹利典 著

平法

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

序章 香取神宮御由緒

第一章 歴史篇

第一節 経津主大神の真伝、
「天真正伝香取神道流」

第二章 修行篇

第一節 入門

第二節 林先生に師事

第三節 香取神道流最初の異国の門弟

第四節 流祖生誕六百年記念祭

第三章 技術篇

第一節 剣術

第二節 居合術

第三節 棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術

第四節 柔術

第五節 忍術

第四章 軍学兵法篇

第一節 遁甲術

第二節 刀剣と密教

第五章 思想篇—全ての修行者へ

第一節 修行者の心得

第二節 兵法は平法なり

—平和を願う偉大なる教え



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



(B5判・上製・箱入・462頁)

古流武術研究家

横瀬

知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介！

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。